

プラントや上下水道を専門人材と特殊車両で維持・管理 先進技術をいち早く導入し幅広いニーズに対応

株式会社トクビル 代表取締役 宮本 治郎 氏



株式会社トクビル 代表取締役 宮本 治郎 氏

今回の「経営者インタビュー」でご紹介するのは、(株)トクビルの宮本治郎代表取締役です。同社は大型特殊車両を多数保有して、公共上下水道の管理や各種プラントの維持工事を長く手掛けています。今回の対談では、経営の考え方や地元・周南市への思いなども含めて幅広くうかがいました。(聞き手：(株)山口銀行 渡邊康弘取締役常務執行役員徳山支店長)

34歳で代表に就任 次世代へつなぐ家業のバトン

(株)山口銀行 渡邊康弘取締役常務執行役員徳山支店長（以下、渡邊）：宮本社長とは同級生でもあり、今日こうして対談できることを楽しみにしていました。

(株)トクビル 宮本治郎代表取締役（以下、宮本社長）：私もお話できるのが楽しみでした。渡邊さんは銀行員としてさまざまな地域で勤務されていますが、私は大学進学で大阪に出て、

その後東京で勤務し、徳山へ戻ってきました。34歳の時、父が60歳を迎えたのを機に事業を引き継ぎ、社長に就任しました。

徳山に戻ってきた時から家業を継ぐつもりでいましたし、父もそれを期待していたのだと思います。父は83歳で元気にしていますが、私が社長に就任してからは、経営に口を出すことなく、温かく見守ってくれています。

また、30歳になる長男が当社に入社し、今年で4年目を迎えました。私自身が父からそ

うしてもらったように、まずは現場や営業の経験を積ませています。次の世代が会社を支えてくれることは、本当にありがたく、何より幸せなことだと感じています。

源流は老舗書店が始めたビル清掃事業

渡邊：トクビルさんは創業 60 周年を迎えられました。宮本社長は「地域とともに歩んできた 60 年」と表現されていますね。

宮本社長：当社は 1966 年に創業し、今年で 60 周年を迎えました。創業者は書店「鳳鳴館」を営んでいた村谷献次さんです。鳳鳴館は学校教材も扱う地域有数の書店でしたが、当時の高度成長期のさなか、村谷さんは街の環境改善の必要性を感じ、「徳山清掃」の社名でビル清掃や廃棄物処理事業を立ち上げました。

翌年、もともとプラント清掃を手掛けていた私の叔父が、徳山清掃の事業を引き継ぎました。さらに、1970 年には、叔父の弟である父が 3

代目社長に就き、社名を「徳山ビルサービス」に変更しました。

こうして受け継がれてきた事業を、現在は私たちが担っています。創業者の地域への思いを受け継ぎながら、ビルメンテナンスや廃棄物処理を通じて、地域とともに歩み続けてきたことが、60 年の歴史につながっていると思います。

特殊車両を自社保有 幅広いニーズに対応

渡邊：御社の強みを教えてください。

宮本社長：当社は 1970 年代半ばから、テレビカメラを活用した上下水道管理や高圧洗浄、各種吸引車による業務などに取り組んできました。現在では、上下水道の維持管理工事、民間製造業を中心とするプラントの清掃・維持管理、廃棄物の収集運搬を主な事業としています。

先ほど渡邊さんには、テレビカメラで管渠を調査できる車両や上下水道などの維持に使う大型清掃車・吸引車をご覧いただきました。吸引車



管渠やプラントの維持工事で活躍する大型の高圧洗浄車の前で事業内容を説明する宮本社長

は水分を含む汚泥などに対応する車両でしたが、それ以外にも乾式バキューム車など、用途に応じた多様な車両を自社で保有しています。上下水道から各種プラントまで、幅広い顧客のニーズに対応できる設備力は、当社ならではの特長だと思います。

また、特定の工種に偏らない事業構成も当社の持ち味です。北海道から鹿児島まで全国のお客様にサービスを提供しており、事業領域の多角化と営業エリアの広域化が、設備投資のリスクを分散し、安定した経営につながっています。

渡邊：大型機材を自社で保有されていることも、大きな特長ですね。

宮本社長：そうですね。特殊車両まで自社で揃えているため、多様なお客様のニーズに対応でき、大半の業務を外注することなく自社で完結できます。これも当社の大きな優位性の一つです。

また、現場力の高い社員が多いことも強みです。社員は営業も担当しますが、同時に現場のスペシャリストでもあります。現場を熟知しているからこそ、お客様への提案にも説得力があります。人材育成には時間がかかりますが、大型免許や高圧洗浄作業に必要な資格の取得を積極的に進めています。

当社の仕事は、プラント故障時のトラブル対応など、緊急時にも求められます。大型プラントが停止すると、お客様に1日で数億円規模の損害が生じる場合もあるため、ご連絡をいただければ、夜間でも現場に駆け付け、24時間体制で対応します。こうした迅速な対応が可能なのも、人材と車両を自社で保有しているからです。



大型の強力吸引車



自走式のテレビカメラで配管内を検査する車両

お客様の困りごとを解消し、「本当に助かった」と喜んでいただけることが、信頼関係の構築や次の仕事にもつながっていると感じています。

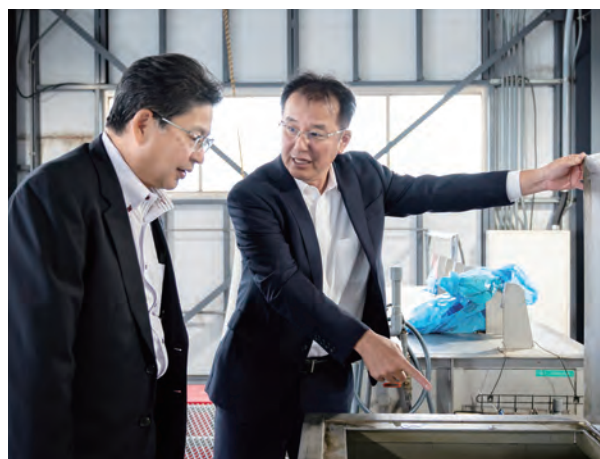
農業と食品リサイクル事業で地域に貢献

渡邊：主力事業に加え、農業など多角的な事業展開もされていますね。

宮本社長：農業のほか、BtoC 事業としてカフェや雑貨店の運営も手掛けています。実は、経営についてほとんど口を出さなかった父が、唯一強く勧めたのが農業でした。私が社長に就任して4年目くらいのことだったと思います。

農業事業では、周南市の須金や長穂など、複数の地域で農地を管理し、有機栽培に取り組んでいます。農業を営むことで、森林や田畑の荒廃を防ぐことにもつながります。耕作放棄地の増加や担い手不足は地域にとって深刻な課題ですが、その解決には企業の力も必要だと感じています。事業として利益を追求するというより、地域のお役に立ちたいとの思いが強くあります。

また、幼稚園児やそのご家族を招いた農業体



験イベントなども開催し、地域の皆さまに喜んでいただいています。父が農業を勧めた背景にも、そうした地域貢献への思いがあったのだと思います。今後も地域のお役に立てる形で取り組みを続けていきたいですね。

渡邊：食品のリサイクル事業も手掛けていらっしゃいますね。

宮本社長：飲食店などから排出される食品残渣を回収し、自社工場で発酵処理を行って有機土壌活性液を製造しています。農業を始めた頃に、有機土壌活性液の製造装置を開発された方に出会い、ご指導をいただきながら事業に取り組んできました。

この有機土壌活性液は自社農場でも活用しており、農業事業との相乗効果も生まれています。食品資源を有効活用し、その成果を農業に還元する循環型の取り組みとして、地域にも貢献できる事業だと考えています。

地域への立脚とフロンティア精神

渡邊：経営理念として「感謝の心」や「新しい価値の創造」を掲げていらっしゃいますね。

宮本社長：常に地域への感謝の気持ちを大切に、新しい技術や車両・機材の導入に挑戦することで、より高度で難易度の高い仕事にも対応



食品資源から有機土壌活性液を製造するプラント

できる会社でありたいと考えています。

先代や先々代も、地域とともに歩みながら、「規模ではなく、他社には真似できないことに挑戦しよう」という考えを大切にしてきました。実際に先々代は、当時の日本では珍しいドイツ製の高圧洗浄用ポンプやノズルを導入しています。私自身もその精神を受け継ぎ、経営に取り組んでいます。

また、地域への恩返しという意味での価値創造には、さまざまな形があると思っています。私は中学から大学までハンドボールに打ち込み、地元に戻ってからクラブチームでプレーしていました。父は徳山クラブ（現・YMGUTS）の女子チームの監督を務めていました。現在は山口銀行さんがチームを引き受けてくださり、そのおかげで地域の方々がハンドボールを続けられる環境が維持されており、本当にありがたいことだと思っています。さらに、ジュニア世代への指導や中学生大会の開催など、競技の普及・発展にもご尽力いただいております。ハンドボールファンの一人として大変感謝しています。

当社としても、技術力の向上はもちろん、地域のことを常に考え、少しでも地域社会に貢献できる企業であり続けたいと思っています。

フレンドリーな社風 ハンドボール仲間と歩む経営

渡邊：宮本社長が社員の皆さんとフレンドリーに接していられるのも印象的でした。トクビルさんならではの社風だと感じます。

宮本社長：家族的な雰囲気の会社でありたいと思っています。社員と一緒にお祭りに参加したり、社員旅行に出かけたりする時間は、私にとっても会社にとっても大切なものです。コミュニケーションを重視し、私自身も定期的に社員と面談を行っていますし、各部署でも対話の機会

を多く設けています。フレンドリーで風通しの良い組織を目指しながら、人と人とのつながりを大切にしています。家族会を開催したり、家族ぐるみで旅行に出かけたりするのもその一環です。

また、社内にはハンドボール経験者も多くいます。先ほど渡邊さんに吸引車の説明をした社員も高校までハンドボールをしていましたし、役員3人もハンドボール経験者です。一緒に競技に打ち込んだ仲間たちが、今では会社の中核を担い、私の右腕、左腕となって支えています。長年培った信頼関係があるからこそ、あうんの呼吸で経営に臨んでいるのだと思います。そうした人材が地元に根付き、地域を支えてくれていることもうれしく感じています。

さらに、「徳山夏まつり」では、会社としてみこしを担いで参加しています。もともとは街を元気にしようと始めたお祭りですが、私が実行委員長を務めていた時に、「私たちのような中小企業も、地域を盛り上げる一員として参加しよう」と考えたことが、参加のきっかけでした。始めてみると「みこし競演で次は3位以内に入りたい」と社員同士で切磋琢磨するようになり、その一体感も大きな魅力になっています。



「徳山夏まつり」で使うみこし

次世代を担う 人材育成が大きなテーマ

渡邊：今後の展望をお聞かせください。

宮本社長：私の代で会社を大きくすることよりも、次の世代へしっかりとバトンをつなぐことが一番の願いです。そのために、次代を担う人材をいかに育てるかが、今の大きなテーマになっています。

もちろん必要な設備投資は続けていきますし、後継者不足に悩む企業からご相談をいただいた場合、シナジーが見込めれば M&A も選択肢の一つです。ただ、それを実現するためにも人材は欠かせません。私が 65 歳になる頃には、現在 30 代の社員たちが会社を支える幹部へと成長してくれていることが理想です。

また、周南市では JR 徳山駅前に CCC（カルチュア・コンビニエンス・クラブ）が運営に携わる周南市立徳山駅前図書館が開館し、蔦屋書店も併設されました。本を通じて人が集まり、

駅周辺に新たなにぎわいが生まれたことをうれしく感じています。一方で、私自身が子どもの頃から親しんできた老舗書店の鳳鳴館がなくなったことには寂しさもあります。

当社のルーツは、鳳鳴館の創業者が立ち上げた事業にあります。その歴史と地域への思いを大切に受け継ぎながら、この街の発展に少しでも貢献できる企業でありたいと考えています。

渡邊：次世代への思いと地域への深い愛着が伝わってきました。貴重なお話をありがとうございました。

■会社概要

名 称：株式会社トクビル

創 業：1966 年

従業員数：80 名

事業内容：上下水道維持管理、プラント維持管理、廃棄物収集・処理、農業事業など

本社（本店）：周南市大字栗屋 50 番地 11

URL：https://www.tokubiru.co.jp/



左から 3 人目が株式会社トクビル 代表取締役 宮本治郎氏
右から 4 人目が株式会社山口銀行 渡邊康弘取締役常務執行役員徳山支店長